



開催日 2015年7月7日 (火)

時間 19:00～20:00

呼吸器感染症において カルバペネム薬を選択すべき時

新潟市民病院 感染症内科 科部長 (呼吸器内科兼務)
新潟大学医学部医学科 臨床准教授

塚田 弘樹 先生

健常成人に発症した中等症までの市中肺炎エンピリック治療で、カルバペネム薬が推奨される症例はほとんどない。耐性菌選択圧への影響からもエンピリック治療薬としての使用は慎重にすべきだと考える。むしろ標的治療すなわちエスカレーションする薬剤として、どのような起炎菌や病態の時に変更するのかを踏まえておくべきである。ただカルバペネム薬は、広域かつ初期殺菌能の高さから有用な薬剤であることは周知の通りである。重症肺炎や膿胸などには、治癒に至らしめる切り札として、使用すべき時は遅延することなく選択することが肝要である。

一方、医療介護関連肺炎・院内肺炎の場合、ESBL産生菌による肺炎のように、カルバペネム薬を第一選択にするべき症例が少なからず存在する。また、医療介護関連肺炎を対象に、初期治療薬をSBT/ABPC群とDRPMないしTAZ/PIPC群とに無作為割り付けして多施設共同前向き検討を行った結果、初期治療失敗例が有意差をもって前者に多かった。ただし、30日死亡には差を認めなかった。背景や重症度を加味した抗菌薬選択の判断が要求されることが示唆される。カルバペネム薬の濫用は厳に慎むべきであるが、ガイドラインにその優位な点を生かす使い方を、一般医家が納得できるよう反映させる必要がある。

【略歴】

昭和60年 新潟大学医学部卒業 第二内科入局
平成4年 新潟大学大学院医歯学総合研究科修了
感染防御機構の研究により博士(医学)取得
平成8年 米国テネシー大学分子生物学教室研究員
平成12年 新潟大学医学部附属病院 第二内科助手
同 感染症管理室長兼任
平成15年 新潟大学医歯学総合病院 感染管理部副部長兼任
平成17年 新潟大学医歯学総合病院 第二内科講師
平成18年 新潟市民病院 感染症内科 科部長
平成19年 同 呼吸器内科 科部長、感染制御室長兼任
新潟大学医学部医学科 臨床准教授兼任

【学会活動等】

日本内科学会 (専門医/研修指導医)
日本感染症学会 (評議員/専門医/指導医)
日本化学療法学会 (評議員/抗菌化学療法指導医/認定治験
コーディネーター/東日本支部幹事)
日本呼吸器学会 (専門医/指導医)
日本エイズ学会 (認定医)
日本環境感染学会
インфекションコントロールドクター
日本感染症・化学療法学会・感染症治療ガイドライン
(肺炎) 作成委員
日本呼吸器学会・肺炎診療ガイドライン作成委員

開催場所：開催場所を記入してください。